

東秩父村新庁舎建設設計・監理業務委託

基本設計図書

【概要版】

令和6年3月

東秩父村

目次

事業概要

配置計画

平面計画

環境・防災・断面計画

外構計画

透視図

WS 報告書

※本基本設計書【概要版】は、現時点での基本的な設計方針を示すものであり、実施設計でも継続検討をしていく為、変更が生じる場合があります。

豊かな自然と歴史ある文化を暮らしと共に支える ひがしちちぶコミュニティホール

現在の本庁舎は、建設後53年が経過し、施設・設備の老朽化や、施設の狭あい化、バリアフリー対応、防災拠点としての機能、増大する保全費用等、様々な課題を抱えていることから、施設の建て替えを行うこととしました。また、庁舎の建て替えに合わせ、同じく老朽化が目立つコミュニティセンターやまなみの機能を集約し、複合施設とする計画です。そこで、「安全で快適な魅力あふれるにぎわい創出拠点」を目指し、東秩父村新庁舎建設基本構想に掲げた6つの基本方針のもと、村民の安心・安全を守る災害に強い拠点となり、村民サービスに優れ、機能的で働きやすく、村民に親しまれる新たな庁舎を建設するため、「東秩父村新庁舎建設基本設計」を作成しました。

基本方針／基本設計での取り組み

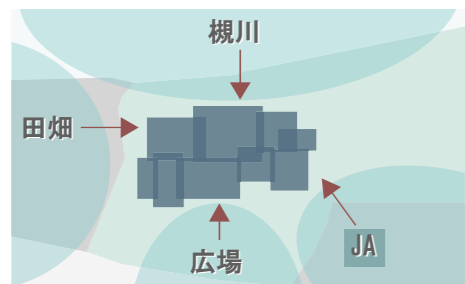
基本理念

『安全で快適な魅力あふれるにぎわい創出拠点』

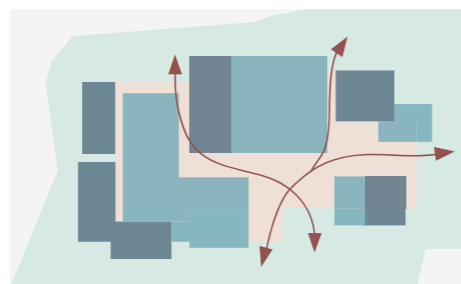
- (1) 村民の安心・安全を守る災害に強い拠点となる庁舎
村民の安心・安全な暮らしを実現するため、耐震性に優れ、有事の際は災害対策機能を有する施設とします。
- (2) 村民サービスに優れた庁舎
ユニバーサルデザインに対応し、だれもが分かりやすく使いやすい利便性を確保し、村民が集い交流の場となるようににぎわいある庁舎を目指します。
- (3) 機能的で働きやすく、高度情報化に対応した庁舎
来庁者と職員との応接や打合せスペースを効率的に配置し、村民と職員にとって快適で使いやすく、連携を取りやすい配置を検討します。また、高度情報化や多様なニーズなどに柔軟に対応できる庁舎を目指します。
- (4) 省資源・省エネルギー対策など環境に配慮した庁舎
地球環境に配慮した庁舎とするため、省エネルギー対策を基本としながら、再生可能エネルギー等の活用を検討します。
- (5) 村民に親しまれる、シンボルとしての庁舎
東秩父らしいデザイン性やシンボル性を考慮して、内装等の木質化を検討し、村民に親しまれる自然と調和した魅力ある庁舎を目指します。
- (6) 効率性と経済性を考慮したコンパクトな庁舎
会議室等への移動間仕切りによる可変性を確保するなど「兼ねる」をキーワードに、兼用できる機能を見定めて施設のコンパクト化を図ります。

設計趣旨

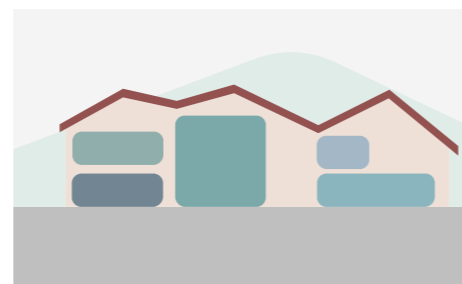
東秩父村に建つ新しい“にぎわい創出拠点”としての6つのポイント



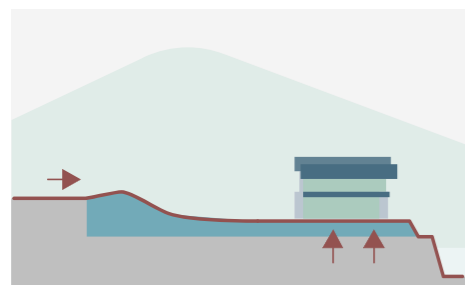
隣接する様々な環境条件に対して、これらをより豊かにする建ち方を屋外の居場所づくりと共に計画します。



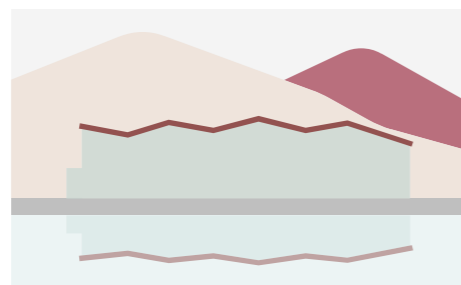
複合機能を緩やかに分かちつなぐ、開放的で明るい屋内のひろば機能を巻き込みながら、屋外のひろばやデッキと一体的につくりまします。



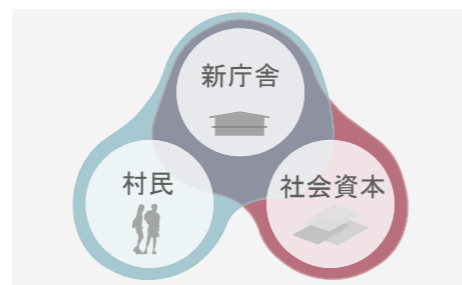
異なる機能が集まることで生まれる多様な活動やこれによる環境のカタチを一枚の大きな屋根で受け止める計画とします。



浸水対策による敷地全体の嵩上げや土石流対策でのいなし設えが屋外での過ごし方につながるランドスケープと融合した計画とします。



東西に望む山々や南北に延びる槻川の雄大な風景と呼応する村のこれからを指し示すシンボルとしてのシルエットをつくりまします。



みんなで考え共に創るワークショップと社会資本の活用を核とした協働のカタチを目指します。

敷地案内図



敷地概要

- ・計画地：埼玉県秩父郡東秩父村大字御堂634番地 他
- ・敷地面積：敷地1 / 約8110㎡
敷地2 / 約1960㎡
- ・区域指定：都市計画区域外
- ・防火地域：指定なし
- ・その他の地域：県立自然公園普通地域
土砂災害警戒区域

建築概要

- ・主要用途：庁舎(事務所)、図書館
- ・構造種別：鉄骨造、直接基礎
- ・延床面積：約2312㎡
- ・階数：地上2階建て
- ・高さ：約10.8m
- ・駐車場：144台
- ・法定建蔽率：なし
- ・法定容積率：なし

工程計画

令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
基本設計				
	実施設計			
	解体/撤去/移設			既存解体
		建設工事		
		敷地02 造成/外構工事	敷地01 造成/外構工事	敷地01 造成/外構工事
			引越	新庁舎供用開始

配置計画

■災害対策を兼ねた建物配置

敷地全体がハザードマップのイエローゾーンに指定されているため、槻川の浸水や西側からの土石流対策に配慮した建物配置としています。土石流対策を兼ねた屋外ひろばは、日常的な利用やイベント等でも利用することが可能です。

■付帯建物の機能的な配置計画

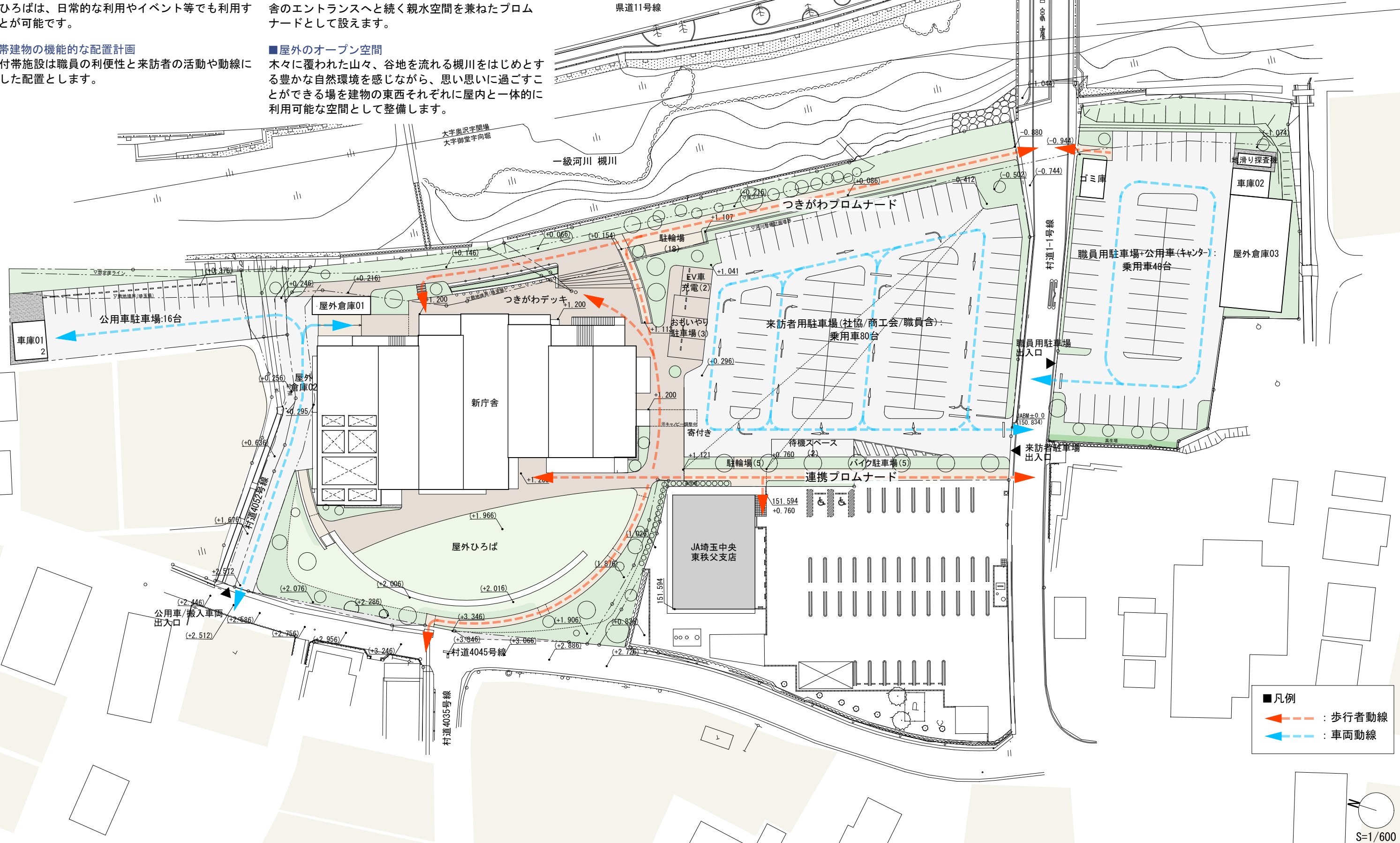
屋外付帯施設は職員の利便性と来訪者の活動や動線に配慮した配置とします。

■周辺との連携を促すプロムナード

連携プロムナードを設けることで、JAとの行き来にも配慮し、このエリアを一体的に利用できる計画とします。また、槻川に面するエリアを村道1-1号線から庁舎のエンタランスへと続く親水空間を兼ねたプロムナードとして設えます。

■屋外のオープン空間

木々に覆われた山々、谷地を流れる槻川をはじめとする豊かな自然環境を感じながら、思い思いに過ごすことができる場を建物の東西それぞれに屋内と一体的に利用可能な空間として整備します。



■凡例

- 歩行者動線 (Pedestrian Movement Line)
- 車両動線 (Vehicle Movement Line)

North arrow and scale: S=1/600

平面計画

複合化メリットの最大化を図るための エリアゾーニングと機能配置

1階

メインエントランスからすべてのエリアが見渡せる機能配置とします。また、執務エリアは、ワンストップサービスの徹底を図る配置を採用し、総合窓口はメインエントランスからわかりやすい配置とします。さらに、村民や観光客に開かれた、交流の場となるようにエントランスホール、コミュニティホール、屋内ひろば等の共用部を設け、屋内外連続したオープンスペースを計画します。

■村民に開かれた様々なオープンスペース

1階に屋内ひろば、2階にメディアホール、屋外にはテラス等、村民と職員、役場機能とコミュニティセンター機能が共有するオープン空間を設け、親しみやすく気軽に立ち寄りたくなる様々な居場所をつくりま

■利用目的にあわせた機能配置

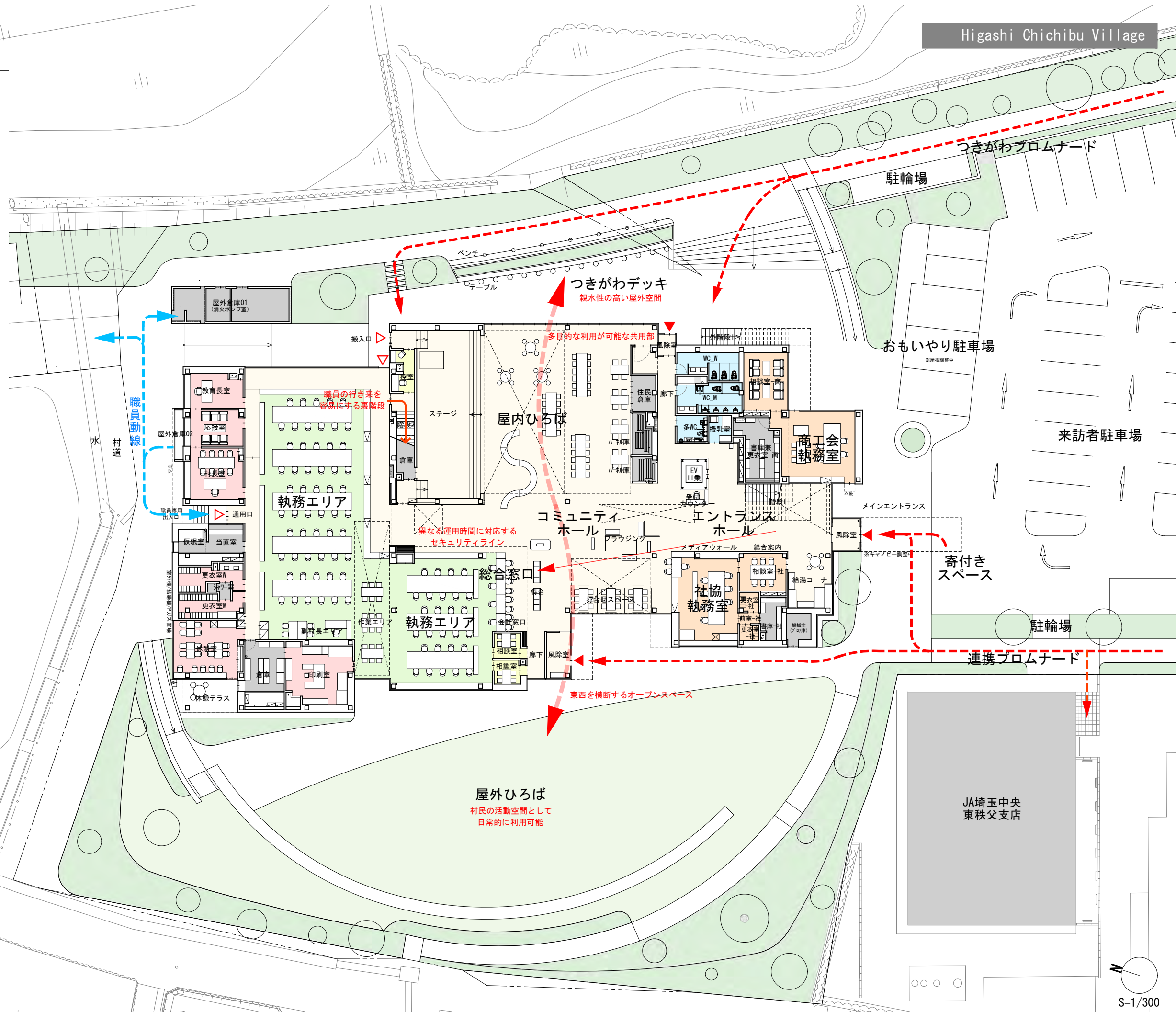
複数の機能を利用目的に合わせて、連携しやすい配置することで、面積縮減とともに、使いやすい建物計画とします。

■フレキシブルな執務空間

執務空間は一体的でオープンな空間とすることで、将来の機構改革にも対応し、様々な転用を見越した建物の長寿命化を可能とします。

■災害時の迅速な機能連携を可能にする各室配置

敷地全体を嵩上げすることで、災害時には、敷地全体が防災拠点となります。災害対策本部を2階に配置することで災害時に駐車場や村の様子を見渡すことができ、迅速な対応ができる計画とします。



平面計画

2階

図書エリア、議会エリア、役場/バックヤードエリアを明快にゾーニングし、メディアホールでつなぐ計画とします。ロングベンチ、ラウンジ、ソファゾーンなど、利用者が使用用途に合わせて自由に活用できる居場所をつくります。

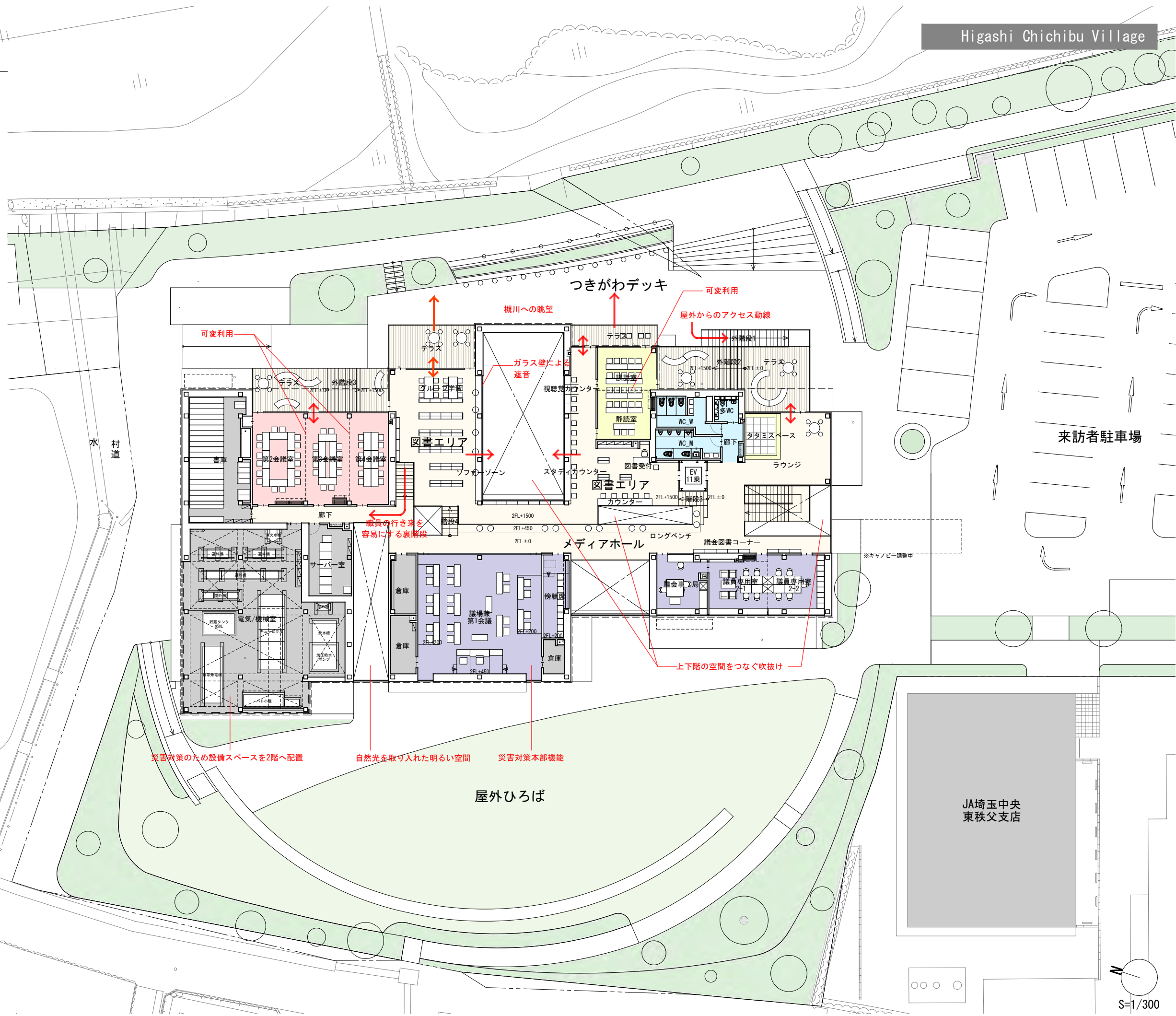
また、東側に槻川に面したテラスを設けることで、屋外にも親水性の高い居場所をつくる計画としています。

■ 村立図書館機能

約10,000冊を収蔵する村の図書館としての機能を担う建物となります。図書エリアを明確に区画せず、屋内外どこでも本を持ち出せる計画としつつ、2階の床から1.5m高いエリアに書架を集約することで、利用時間に合わせてセキュリティを掛けることが可能です。また、議会図書も図書エリアの一部として計画しています。

■ 防災拠点機能

台風、集中豪雨による河川の氾濫や土石流等の被害を小さくするため、電気/機械室、サーバー室、書庫を2階に設ける計画とします。



環境計画

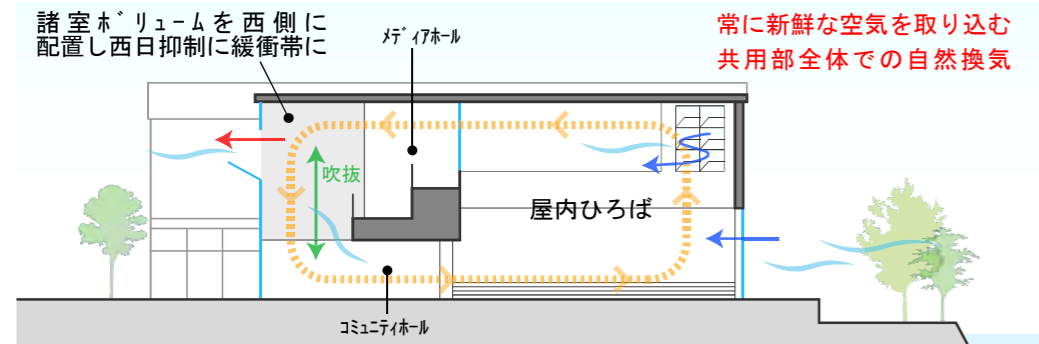
東秩父村の気候や風土に寄り添い・活かす地域ならではの計画とします。ランニングコストに負担を掛けず、自然エネルギーの積極的な利活用による、明るく快適な場所を計画します。

■費用対効果に基づく環境型庁舎

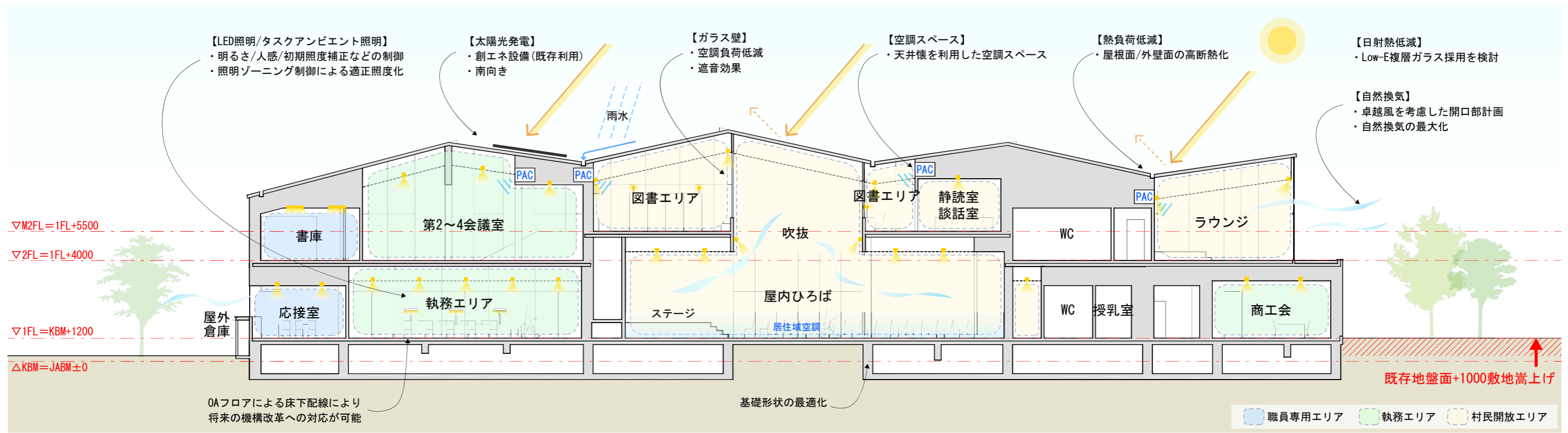
エネルギー効率の高いLED照明や、Low-E複層ガラス等を採用することで、費用対効果の高い快適な光熱環境を実現します。さらに、創エネ設備として太陽光発電パネルの導入を図ることでエネルギーの創出と消費削減を両立した環境型の庁舎を実現します。空調設備は、使い勝手や経済性、将来の改修時の影響を少なくする為に個別空調とし、災害時に使用する部屋に配慮した機器ゾーニング計画とするなど、適切な位置に設置し、空調負荷を減らす計画とします。

■的確なパッシブデザインの採用

新鮮空気を多く取り込む為の開口部設定を行い、有風時において1階、2階ともに新鮮な空気が循環する計画とします。西側の屋外ひろばに面するコミュニティホールや執務エリア、東側に面する屋内ひろばは、一部ガラス窓を開放することができ、多くの自然光を取り入れながらも東西方向に風が抜ける計画とします。また、庇を設けることによる西日侵入防止など対策も行います。パッシブな計画とすることで自然エネルギーを最大限利用した熱負荷の小さい快適な環境を実現します。



断面計画



防災計画

災害時において、災害対策本部、指揮管理などの危機管理機能の発揮及び住民対応を重視した計画とします。危機管理機能として2階議場を災害対策本部とし、1階の屋内広場は住民の一時避難場所とします。

■基本的なリスク回避の考え方

水害に対しては、敷地の盛土や出入口への止水版設置、公用車エリアの盛土を行います。土砂災害に対しては、山側からの緩衝帯屋外ひろば)を設け敷地境界の盛土、西側開口部の配慮を行います。

■発災時の諸室利用 (災害対策本部)

2階の議場/第1会議室に災害対策本部を配置することで、被災で1階部分が使用できない際にも切れ間のない危機管理対応を行います。2階の第2~4会議室は、状況に応じて災害時の応援部隊の活動スペースや要配慮者向けの部屋など、柔軟な利用が可能です。その他、図書スペースの談話室やタタミスペース等も更衣室や授乳室などの要配慮者向けの個室として多目的な利用が可能です。

■災害に対する設備計画

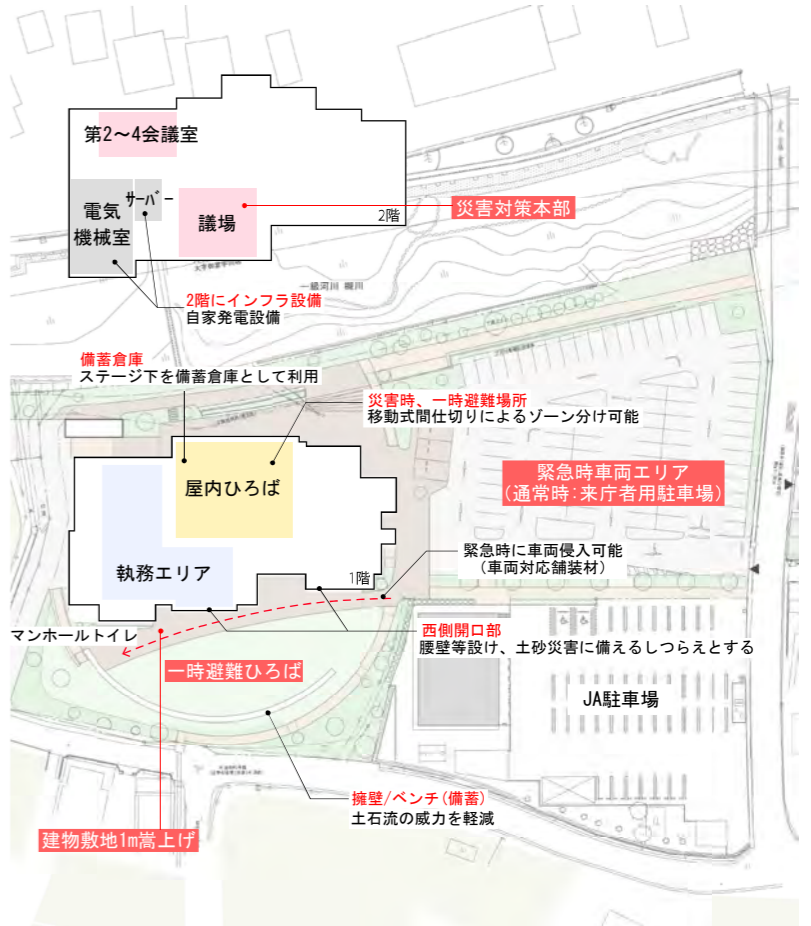
機械室やサーバー室を2階に配することで、浸水時のノンダウン化を図り、災害時も庁舎機能を維持し防災拠点としての役割を果たすことのできる計画とします。また、自家発電設備導入やマンホールトイレ、防災ベンチの設置等により、災害時にも対応できるレジリエンスに優れた庁舎を実現します。

■住民の一時避難場所

水害時の早期避難、地震時の緊急避難などの住民避難に因るため、1階の屋内ひろばを一時避難場所として開放します。災害の規模や状況に応じて、屋内ひろばの壁は可動式とし広間や個室などの空間を作ることができます。

■防災ひろばとしての屋外ひろば

屋外ひろばは、土砂災害の威力から庁舎を守るための緩衝帯ですが、被災していない場合は、炊き出しやボランティア活動拠点となります。



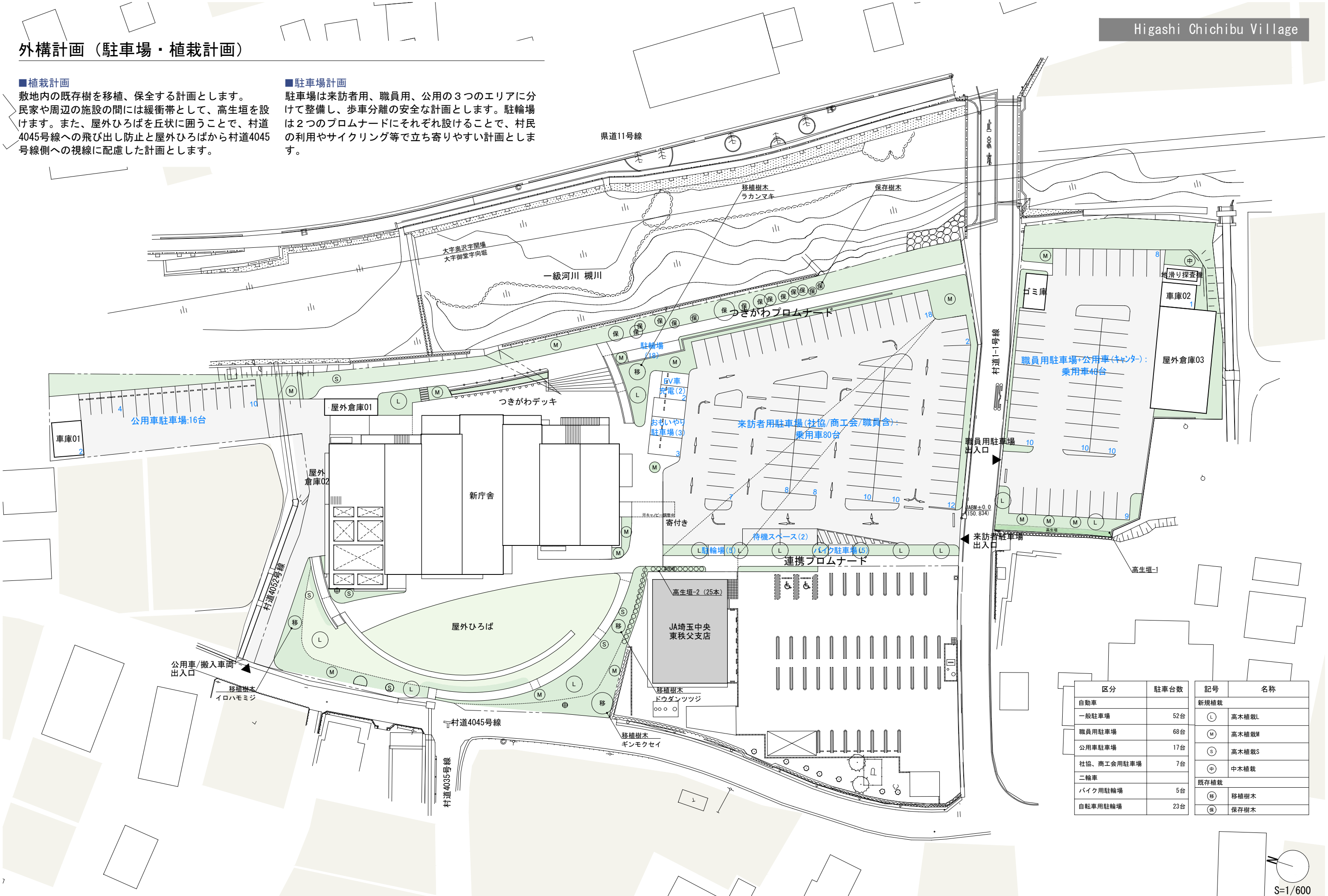
外構計画（駐車場・植栽計画）

■植栽計画

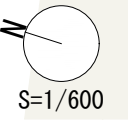
敷地内の既存樹を移植、保全する計画とします。
 民家や周辺の施設の間には緩衝帯として、高生垣を設けます。また、屋外ひろばを丘状に囲うことで、村道4045号線への飛び出し防止と屋外ひろばから村道4045号線側への視線に配慮した計画とします。

■駐車場計画

駐車場は来訪者用、職員用、公用の3つのエリアに分けて整備し、歩車分離の安全な計画とします。駐輪場は2つのプロムナードにそれぞれ設けることで、村民の利用やサイクリング等で立ち寄りやすい計画とします。



区分	駐車台数	記号	名称
自動車			
一般駐車場	52台	(L)	高木植栽L
職員用駐車場	68台	(M)	高木植栽M
公用車駐車場	17台	(S)	高木植栽S
社協、商工会用駐車場	7台	(中)	中木植栽
二輪車			
バイク用駐輪場	5台	(移)	移植樹木
自転車用駐輪場	23台	(保)	保存樹木





県道11号より新庁舎をみるイメージ

新庁舎は、東秩父村の風景に寄り添うシルエットとします。大門橋を渡り、村道1-1号からは東西2本のプロムナードでアクセス可能な歩車分離の安心安全な計画です。槻川沿いには「つきがわデッキ」、西側には「屋内ひろば」を設け、村民の屋外での活動を支えます。



1階：屋内ひろばよりコミュニティホール越しに屋外ひろばをみるイメージ

1階は、執務エリア・商工会・社会福祉協議会の機能が集約しています。これらの空間をエントランスホール・コミュニティホール・屋内ひろば等の共用部で繋ぐ計画としています。屋内ひろばは、一部を移動間仕切りとすることで、大きなひと部屋としての利用が可能です。また、随所に吹抜けを設けることで、1・2階連続した一体空間となります。



2階：メディアホールより図書エリア・議会エリアをみるイメージ

東側の図書エリアと西側の議会エリアをメディアホールで繋ぐ計画とします。メディアホールにはロングベンチを設け、エリアを区画することなくどこでも本を読むことが可能です。




ワークショップの内容

第1回

「新庁舎のアイデアをみんなで考える」
8月27日(日) 13:30 ~ 16:00
@コミュニティセンター
やまなみ 大ホール


■提案プラン概要説明
■WS (KJ法)
[どのような村にしたいか]
・村の良いところ
・村の課題
[コト探しワーク]
・新庁舎でやりたいこと
・受けたいサービス



第2回

「各テーマでやりたいこと、あるといいもの」
10月21日(土) 13:30 ~ 16:00
@コミュニティセンター
やまなみ 大ホール

■第1回WSのふりかえり
■WS (ワールドカフェ)
・テーブルをテーマごとに分けて、各テーブルごとに議論
・各場所でのほしい機能等



第3回

「みんなのデザインお披露目会」
1月20日(土) 13:30 ~ 16:00
@コミュニティセンター
やまなみ 大ホール

■第2回WSのふりかえり
■WS (一休型/意見交換)
・WSを踏まえてとりまとめた計画案について意見交換



NEWS LETTER Vol.01

令和5年9月発行 発行：東秩父村役場 総務課

第1回「新庁舎のアイデアをみんなで考える」



ワークショップ概要
日 時：令和5年8月27日(日) 13:30-16:00
場 所：コミュニティセンター「やまなみ」大ホール
参加人数：36名

東秩父村はいよいよ新庁舎建設に向けて第一歩を踏み出しました。まず、村の皆さまの声をデザインに反映するために、第1回目の新庁舎建設ワークショップを開催し、36名の方々にご参加いただきました。ワークショップでは東秩父村をどのような村にしたいか、新庁舎でやりたいこと、アイデアをいただき、今後できる限り村民の皆さまの声をデザインに反映させ、村民の皆さまの庁舎として、より親しみをもち、受けたいサービス、ワークショップやパブリックコメントなどを企画していきます。

当日スケジュール

- ご挨拶
- 庁舎建設事業及び設計者提案プラン概要説明
- ワークショップ趣旨説明
- 他己紹介 (他の人に自分の紹介をしてもらう)
- ワークショップ
 - ①どのような村にしたいか
 - ②コト探しワーク
 - ③各班発表
- 質疑応答

ワークショップの様子

1 他己紹介
まず2人1組で互いに自己紹介をし、次にペアの人のことを隣の人たちに紹介しました。普段では聞かれない世代がペアを組むことで交流の幅が広がります。

2 ワーク1
「わたらの良いところ」「わたらの課題」をそれぞれ書き出し、班で話し合いました。東秩父村を再発見する機会となりました。

3 ワーク2
ワーク1で出した意見を基に、新庁舎でやりたいこと、こんな場所が欲しいなどのアイデアを出し合い、議論しました。

4 発表
各班で出したアイデアを班の代表者に発表していただきました。

各班の発表の様子
ワークショップでは、村民の皆さまには1〜6班に分かれていただき、ワーク1・ワーク2を実施していただきました。最後に、各班ではどのような意見が出て、どのような議論が行われたのかを他の班や設計者、村職員にも共有するために、発表を行いました。

皆さまの発表を受けて設計者もアイデアが膨らみました。

今後のワークショップスケジュール

step 1 新庁舎のアイデアをみんなで考える
8月27日(日) 13:30-16:00

step 2 各テーマでやりたいこと、あるといいもの
10月21日(土) 13:30-16:00

次回

step 3 みんなのデザインお披露目会
1月20日(土) 13:30-16:00

NEWS LETTER Vol.02

令和5年10月発行 発行：東秩父村役場 総務課

第2回「各テーマでやりたいこと、あるといいもの」

ワークショップ概要
日 時：令和5年10月21日(土) 13:30-16:00
場 所：コミュニティセンター「やまなみ」大ホール
参加人数：32名

新庁舎建設に向けて村民のみなさんの声をデザインに反映するため、合計3回の開催を予定しているワークショップのうち、第2回目となるワークショップを開催しました。今回のワークショップでは、第1回で出した意見や、設計者と協議を重ねながら条件整理を行った進行中の設計案を共有し、6つのテーマについて話し合われました。

当日スケジュール

- ご挨拶
- 今までのふりかえり
- 第1回ワークショップを踏まえた設計計画について
- アイズプレイク (配席決定)
- ワークショップ (ワールドカフェ方式)
 - 「各テーマでやりたいこと、あるといいもの」
 - ・1回目
 - ・2回目
 - ・3回目
 - ・各班発表
- 質疑応答

ワールドカフェとは... 少人数に分かれて、各テーマに沿って対話する方法です！

ワールドカフェ
今回は「交流スペース」「役場(建物)」「多目的ホール」「図書」「屋外空間」「防災/災害対策」の計6つのテーマについて、好きなテーマを巡回し話し合う、ワールドカフェ方式で意見交換を行いました。

今後のワークショップスケジュール

step 1 新庁舎のアイデアをみんなで考える
8月27日(日) 13:30-16:00

step 2 各テーマでやりたいこと、あるといいもの
10月21日(土) 13:30-16:00

step 3 みんなのデザインお披露目会
1月20日(土) 13:30-16:00

次回

次回となる第3回ワークショップは、ついに最終回となります。第1回、第2回ワークショップでの意見を反映し、新庁舎の設計デザインのとりまとめを行います。

NEWS LETTER Vol.03

令和5年3月発行 発行：東秩父村役場 総務課

第3回「みんなのデザインお披露目会」



ワークショップ概要
日 時：令和5年1月20日(土) 13:30-16:00
場 所：コミュニティセンター「やまなみ」大ホール
参加人数：35名

8月から開催をしている新庁舎建設ワークショップの第3回目を開催しました。これまでの第1回・第2回ワークショップでは、村民の皆さまから「新庁舎でやりたいこと」などについて、アイデアを出していただきました。今回の第3回ワークショップでは、これまでの振り返りをしたうえで、参加者の質問、村担当者や設計者が答えるという形で行いました。

当日スケジュール

- ご挨拶
- 今までのふりかえり
- 住民意見の分類について
- 設計内容の説明
- 質問タイム

今後の主なスケジュール

新庁舎基本設計【概要版】の公表 & 意見募集の実施
＜募集期間＞ 令和6年4月22日(月)～5月31日(金)
＜公表場所＞ 総務課窓口および村ホームページ、タブレット

住民説明会 (5月開催予定)

NEWS LETTER No.1

今日の様子

ワークショップの流れ

1 他己紹介
まず2人1組で互いに自己紹介をし、次にペアの人のことを隣の人たちに紹介しました。普段では聞かれない世代がペアを組むことで交流の幅が広がります。

2 ワーク1
「わたらの良いところ」「わたらの課題」をそれぞれ書き出し、班で話し合いました。東秩父村を再発見する機会となりました。

3 ワーク2
ワーク1で出した意見を基に、新庁舎でやりたいこと、こんな場所が欲しいなどのアイデアを出し合い、議論しました。

4 発表
各班で出したアイデアを班の代表者に発表していただきました。

各班の発表の様子
ワークショップでは、村民の皆さまには1〜6班に分かれていただき、ワーク1・ワーク2を実施していただきました。最後に、各班ではどのような意見が出て、どのような議論が行われたのかを他の班や設計者、村職員にも共有するために、発表を行いました。

皆さまの発表を受けて設計者もアイデアが膨らみました。

今後のワークショップスケジュール

step 1 新庁舎のアイデアをみんなで考える
8月27日(日) 13:30-16:00

step 2 各テーマでやりたいこと、あるといいもの
10月21日(土) 13:30-16:00

次回

step 3 みんなのデザインお披露目会
1月20日(土) 13:30-16:00

NEWS LETTER No.1

今日の様子

はじめに、事務局よりこれまでの振り返りとして、「事業概要」「過去2回のワークショップについて」「第2回ワークショップと意見箱でいただいた意見の分類と設計への反映」について説明を行いました。

次に、これまでの庁内での検討や住民意見を反映した建築及び外観プランについてイメージベースと合わせて説明を行いました。

最後に参加者から村担当者や設計者への質問タイムがあり、皆さまから積極的に感想と質問をいただきました。(※詳しい質疑応答内容は裏面に記載してあります。)

当日、会場には意見分類の一覧表、図画、模型を展示し、説明を行いました。

これまでの流れ

第1回 新庁舎建設ワークショップ (8月27日)
「わたらの良いところ」「わたらの課題」「やりたいサービス」についてご意見をいただきました。

第2回 新庁舎建設ワークショップ (10月21日)
「交流スペース」「役場(建物)」「多目的ホール」「図書」「屋外空間」「防災/災害対策」についてご意見をいただきました。

第3回 新庁舎建設ワークショップ (1月20日)
これまでのワークショップのご意見を基にした「みんなのデザインお披露目会」を行い、自由に質問をしていただきました。

今後の主なスケジュール

新庁舎基本設計【概要版】の公表 & 意見募集の実施
＜募集期間＞ 令和6年4月22日(月)～5月31日(金)
＜公表場所＞ 総務課窓口および村ホームページ、タブレット

住民説明会 (5月開催予定)